

# 国庫金事務電子化の現状と課題

- インフラ整備の進展と今後の利用促進 -

(概要)

【本件の問合せ先】  
総務課・秋山  
03-3277-2250(直)  
osamu.akiyama@boj.or.jp

## 【本論文の要旨】

- ・国庫金事務電子化プロジェクトのスタートから5年がたち、「国民の利便性向上」と「関係機関の事務効率化」に向け、インフラ整備は相当に進展。
- ・国庫金の支払では実際に紙処理が減少。一方、国庫金の受入は利用促進が必要。
- ・今後の課題は、 国税還付金等の電子化対象範囲の拡大、 電子納付の利用促進、 ネットワーク化の下での障害対応。
- ・金融機関が戦略的に事務・経営に取り組む中、国庫金事務を新しい時代に即したものに。

## 【電子化のあゆみ】

- ・多数の国庫金関係者が連携して検討。極力幅広い共通仕様を実現。セキュリティ対策の強化。
- ・日本銀行は、官民の中心メンバーのひとりとして早くからこうした課題に取り組んできた。

## < 電子化のあゆみ >

	国庫金事務電子化の動き	電子政府の動き
99年		・ミレニアム・プロジェクト
00年	・「国庫金事務の電子化について」公表	
01年	・国税還付金振込のMT化	・e-Japan戦略 ・e-Japan重点計画
02年		・e-Japan重点計画-2002
03年	・歳出金振込のオンライン化	・e-Japan戦略 ・電子政府構築計画 ・e-Japan重点計画-2003
04年	・歳入金等電子納付の実現 ・記帳・振替事務の電子化	・e-Japan戦略 加速化パッケージ ・電子政府構築計画(改定) ・e-Japan重点計画-2004
05年	・保管金・供託金、財政融資資金の受払電子化	・IT政策パッケージ-2005
予定	・国税還付金振込、国家公務員給与振込のオンライン化	1

# [参考] 国庫金の受払事務と電子化スキームの概要

・国庫金の受払事務は、以下のような段階を経て電子化が進むのが通常。



## < 国の支払 >

政府小切手による現金払

紙による振込

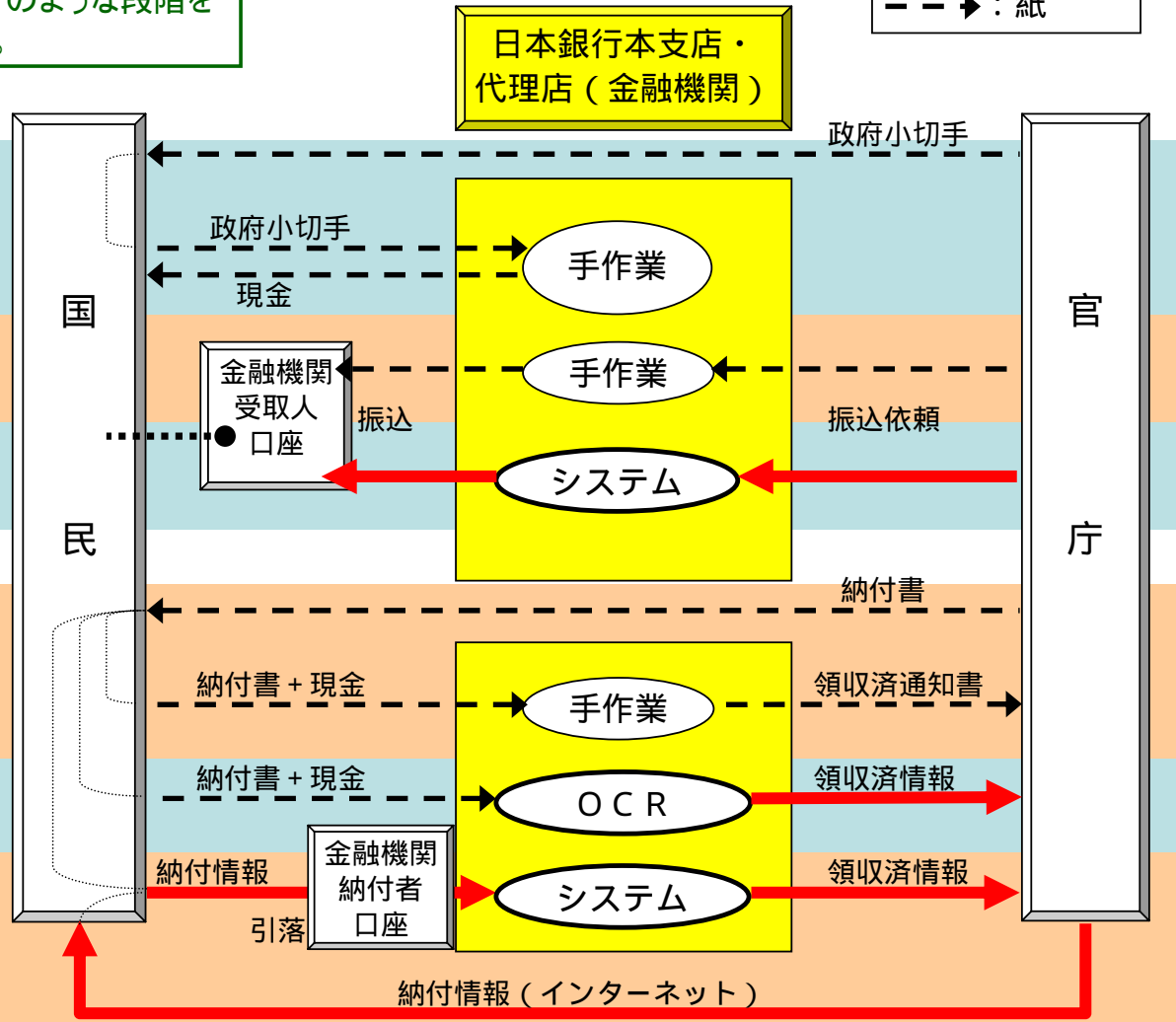
MT、オンラインによる振込

## < 国の受入 >

紙による納付と手作業処理

紙による納付とOCR処理

電子納付



## 【国庫金事務電子化の効果】

- ・国民のメリットは、振込の迅速化と、国庫金が「いつでもどこでも」納付できること。
- ・関係機関のメリットは、事務のペーパーレス化、STP化、標準化。
- ・但し、更なる効果発現のためには利用促進が必要。

	国の支払	国の受入	記帳・振替
電子化の概要	・振込依頼をMTまたはオンラインを通じて行う。	・ネットワーク技術、Web技術を活用。インターネットバンキングやATMを通じて国庫金が納付できる。	・ネットワーク技術、Web技術を活用。日本銀行本支店・代理店をネットワークで結び、記帳事務、国庫内振替事務を自動化。
国民の利便性向上	・オンライン化すれば、 <b>振込までの期間が短縮化</b> するケースがある(公共事業費、保管金・供託金等では既に実現。国税還付金もオンライン化時に実現の予定)。	・国庫金が「いつでもどこでも」納付可能。 ・とくに <b>保管金・供託金等は、日本銀行本支店代理店の特定店舗に行かなくてもすむ</b> ため、効果大。	
関係機関の事務効率化	・ペーパーレス化により、官庁、金融機関、日本銀行の手作業負担が減少。 ・ <b>地方分散型からセンター集中型への変更により、地方拠点での効率化</b> が特に進展。 ・全銀システムの活用による <b>事務の標準化</b> 。	・ <b>金融機関</b> における領収済通知等の <b>仕分け</b> と日本銀行や官庁への <b>送付</b> といった <b>紙処理が減少し、自動処理化</b> 。 ・マルチペイメントネットワークの活用による <b>事務の標準化</b> 。	・国庫内振替の迅速化により、 <b>官庁が資金を早期に利用可能</b> 。 ・金融機関における <b>郵送事務</b> や <b>日本銀行への報告</b> が <b>オンライン化により廃止</b> 。
その他		・歳入金等の受入から <b>政府当座預金計上までの期間が短縮</b> (2 1営業日)。	・国への提出書類の磁気媒体化等により <b>国の決算事務が迅速化</b> 。 3

# 【最近5年間におけるインフラ整備の進展】

## <分野別インフラ整備状況>

・歳出金等では、この5年間、MTやオンラインによる処理が着実に拡大。予定も含めれば、殆どの分野で電子化のインフラが整備される。

・歳入金等では、04年に電子納付が導入され、交通反則金以外は整備済。口座振替は、5年間でMT化が進展。

・次頁図は、日本銀行と官民のセンター等の接続・連携を示す。

・5年前に比べ、新たなシステムが多く立ち上がり、外部との接続・連携関係が複雑化。システム障害対応の重要性を示している。

		事務量 (注2)	01年	02年	03年	04年	05年	予定 (注3)
【歳出金等】		264						
	公共事業費等	19	MT	振込		オンライン		
	失業給付金					による振込		
	旅費等		小切手払または紙の振込					
	国家公務員給与	38	(一部は+FD)					
	国税還付金				MTによる			
	年金	206			振込			
【歳入金等】		190						
	窓口納付+電子納付	98						
	国税(除関税)	32						
	関税	2						
	電波利用料	1		日銀			電子	
	労働保険料	3		OCR			納付	
	厚生年金保険料等	7						
	行政手数料等	1						
	国民年金保険料							
	交通反則金等	53						
	口座振替	92						
	国民年金保険料							
	厚生年金保険料等		(+MT)			MT		
	電波利用料		(+MT)					
	労働保険料				紙			
	国税(除関税)				(+MT)			
	関税				(+オンライン)			
【保管金・供託金等】		N.A.						
	保管金						電子納付、	
	供託金			紙			オンライン	
	財政融資資金						による振込	
	その他							
【その他】		N.A.						
	受払記帳			紙			統合国庫記帳	
	国庫内振替						システム	
	政府有価証券等				(未検討)			

(注1)

本図表の色分けは、各分野におけるインフラ整備が、紙 磁気媒体 オンラインのどの段階まで進んでいるかを示す(例えば、電子納付とOCRが並存している分野は「電子納付」と表示)。主として官庁と日本銀行の間(口座振替は官庁と金融機関の間)のインフラ整備状況を示す。

(注2)

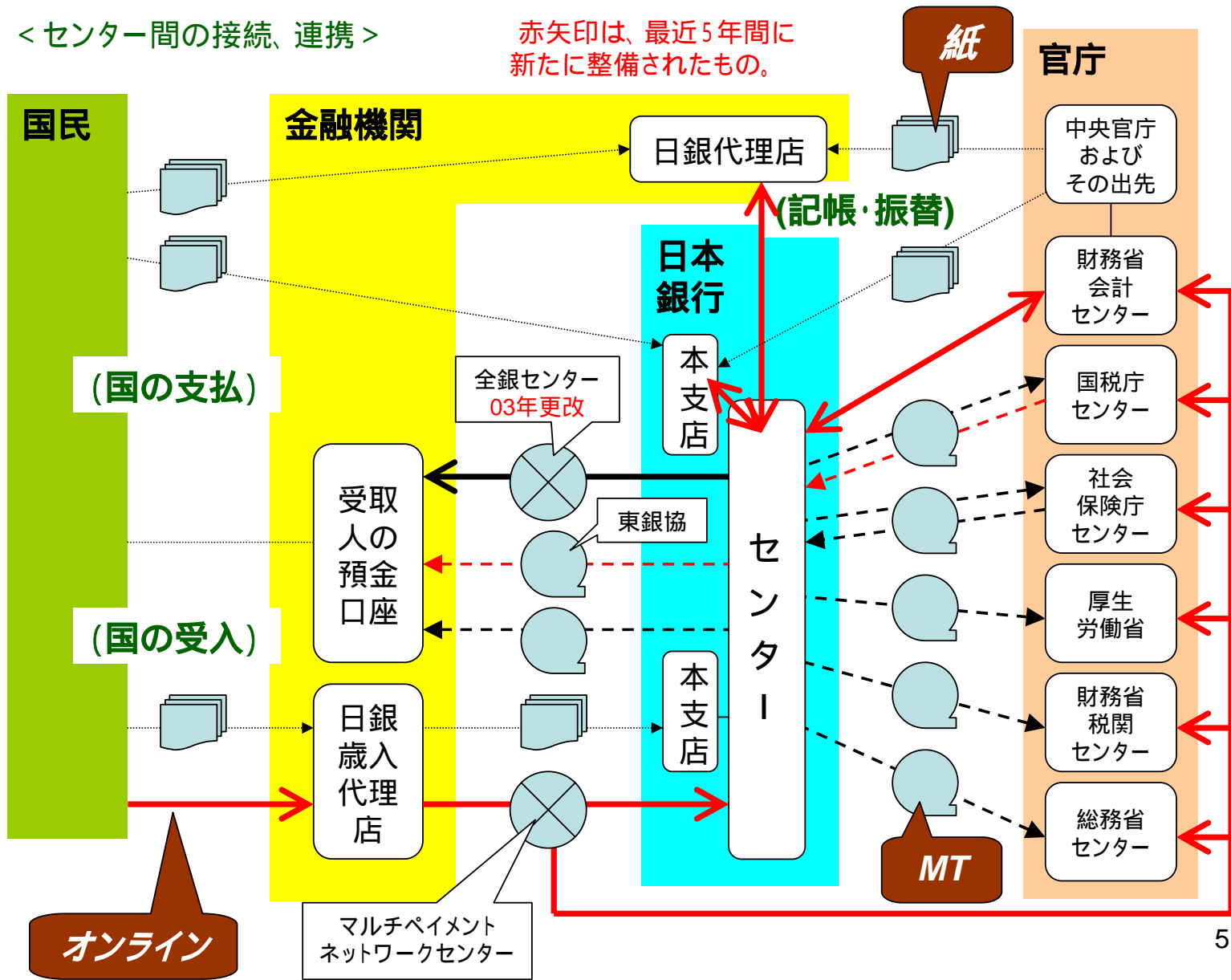
事務量は2004年度実績(概数、単位・百万件)。

(注3)

「予定」は電子化する方向性が明確に示されているものに限定。

<センター間の接続、連携>

赤矢印は、最近5年間に新たに整備されたもの。



## 【最近数年間の電子納付比率等の推移】

単位・万件、カッコ内は受払に占める割合・% (注)本文の注参照。

・国の支払では、02年度から04年度の間、オンライン処理が4.4倍、紙処理は4割減。

・国の受入では、紙処理の割合が徐々に減少していると考えられるが、電子納付は未だ低い伸び。

	国の支払(振込・送金事務)			国の受入(収納事務)			
	オンライン処理	MT処理	紙処理	電子収納	窓口納付		口座振替(MT等)
					OCR処理	紙処理等	
02年度	437 ( )	( )	5,715 ( )	( )	( )	( )	( )
03年度	2,020 (7.7)	20,458 (77.5)	3,918 (14.8)	0 (0.0)	3,401 (17.2)	6,995 (35.4)	9,359 (47.4)
04年度	1,912 (7.3)	21,085 (80.6)	3,180 (12.1)	19 (0.1)	3,436 (18.2)	6,273 (33.2)	9,174 (48.5)
05年 4～6月	479 (5.5)	7,181 (83.0)	991 (11.5)	10 (0.2)	856 (16.8)	1,547 (30.3)	2,686 (52.7)

## 【今後の課題】

課題		具体的内容
電子化対象範囲の拡大		国税還付金、国家公務員給与のオンライン化等。構築済のインフラを極力活用。
電子納付利用促進	認知度の向上	関係機関が広報に注力。日本銀行アンケート調査では3割の人が国庫金の電子納付を「知っている」としており、より具体的な誘導策が必要。
	金融機関のチャネル拡充	ATM対応金融機関6行に対し、ATMによる電子納付件数は3割を占めており、国民に身近なチャネルの整備が重要。両替機等の簡易チャネルも検討されている。
	使い勝手の向上	国税の電子申告等につき、政府でも使い勝手の向上を検討。具体的には、国税の添付書類のオンライン化等、登記や供託のオンライン申請等。
	インセンティブの向上	行政手数料については、オンライン利用の手数料を安価に設定する例が存在。
システム障害対応力の強化		事務の集中化、ネットワーク化の下でのシステム障害対応力の強化(訓練の強化等)。
金融機関の変化への対応		金融機関が戦略的な業務・経営に取り組む中、国庫金事務も新しい時代に即したものとなるよう努める。

各課題について、各関係者が更に工夫を重ねる必要。